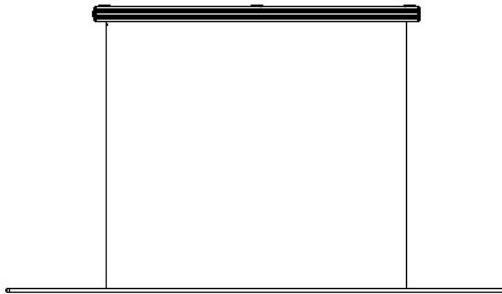


取扱説明書 電動昇降バトン



このたびは当社製品をお買い上げいただきありがとうございます。

ご使用の前に、製品を正しく安全にご利用いただくために、この「取扱説明書」を最後までお読み下さい。
お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管して下さい。

万一、ご使用中にわからない事や不具合が生じた時きっとお役に立ちます。

安全上のご注意

口絵表示について

この「取扱説明書」では、製品を正しく安全にお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、色々な絵表示をしています。
その表示と意味は次のようにになっています。内容をよく理解してから本文をお読み下さい。



警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が怪我をしたり周囲の家財に損害を与えたりする事があります。

口絵表示の例



この記号はしてはいけない内容です。



この記号は実行しなければならない内容です。

⚠ 警告



引抜強度を確保できる場所に取り付けて下さい。

取付場所の強度が不十分な時、落下などで事故の原因になります。

* 十分な強度
(最低引抜強度5倍以上)に
補強してから取り付けて
下さい。



異物を入れないで下さい。

液体や金属などが内部に入ると、故障の原因になります。



振動する場所に取り付けないで下さい。

部品などが破損し、故障や落下などで事故の原因になります。



油の付着しやすい場所に設置しないで下さい。

部品などが劣化し、故障や落下などで事故の原因になります。



火気近くでは使用しないで下さい。

ストーブなど火気近くでは使用しないで下さい。
火災・火傷・故障の原因になります。



可燃性ガスの中で使用しないで下さい。

可燃性ガスに引火・爆発する恐れがあります。



高温・多湿の場所では使用しないで下さい。

部品などが劣化し、故障や落下などで事故の原因になります。

⚠ 警告



製品を改造したり、
部品交換をしないで
下さい。

火災・感電・故障などで
事故の原因になります。



危険ですので
お子様に手を触れ
させないで下さい。

事故に繋がる恐れが
あります。周囲の安全を
確認してご使用下さい。



ケーブル類は
引っ張らないで
下さい。

火災・感電・漏電・故障の
原因になります。



配線は正しく
行って下さい。

必ず守る

誤配線によりショート・
火災・漏電・故障の
原因になります。



異常を感じた場合は、
速やかに電源を
切って下さい。

必ず守る

異常事態が収まった事を
確認し、販売店または専門の
工事業者にご相談下さい。



駆動部分には
触れないで下さい。

必ず守る

バトンを使用した直後は、
高温になっている場合があり
火傷の原因になります。



バトン棒に
ぶら下がったり、
不安定な状態で物を
掛けたりしないで
下さい。

必ず守る

⚠ 注意



バトンを
昇降させる時、
周囲に人や障害物が
ない事を確認して
から操作して下さい。

必ず守る



製品を安全に使用
するため、
1年に1回はP.12の
「安全チェックシート」
に基づき、自主点検を
行って下さい。



バトン棒の長さに対し、
均等に荷重をかけて
下さい。
偏った荷重を
かけると故障・落下の
原因になります。



操作中は常に
(止)ボタンを
押せるよう、操作場所
から離れないで下さい。

必ず守る



製品には寿命が
あります。
設置して年月が経つと
外観に異常がなくとも
内部の劣化は進行
しています。
点検・交換をして
下さい。



積載荷重以上の物を
吊り下げないで下さい。



バトンの昇降中は、
絶対に手を触れないで
下さい。

必ず守る



点検・お手入れの際は
電源を必ず切って
行って下さい。



バトンの操作は、
必ず操作スイッチで
行って下さい。

必ず守る



使用しない場合でも。
1ヶ月に1度、
動作確認を
行って下さい。



作業を行う場合は、
十分な照度を確保
して下さい。



バトンの
操作スイッチは、
濡れた手で触れないで
下さい。

必ず守る



吊物が揺れている
状態でバトンを昇降
させないで下さい。



急逆転運転や
寸動(きざみ)運転は
行わないで下さい。

⚠ 注意



必ず守る

ワイヤーに緩みがある
状態での昇降は
しないで下さい。
故障の原因になります。



禁止

看板等をバトンに
吊るす時には、
バトンを絶対に
持ち上げないで下さい。



手をふれない

製品の取り付け・
取り外しは、
販売店または専門の
工事業者にご依頼
下さい。



必ず守る

廃棄は専門業者に
依頼して下さい。
燃やすと化学物質
などで目を痛めたり、
火災・火傷の原因に
なります。



注意

使用場所・取付場所・保管について

直射日光の当たる場所には置かないで下さい。
ホコリ・高温多湿の場所では使用しないで下さい。
風が強い時は、製品を使用しないか窓を閉めてご使用下さい。

◆免責について

弊社はいかなる場合も以下に関して一切の責任を負わないものとします。

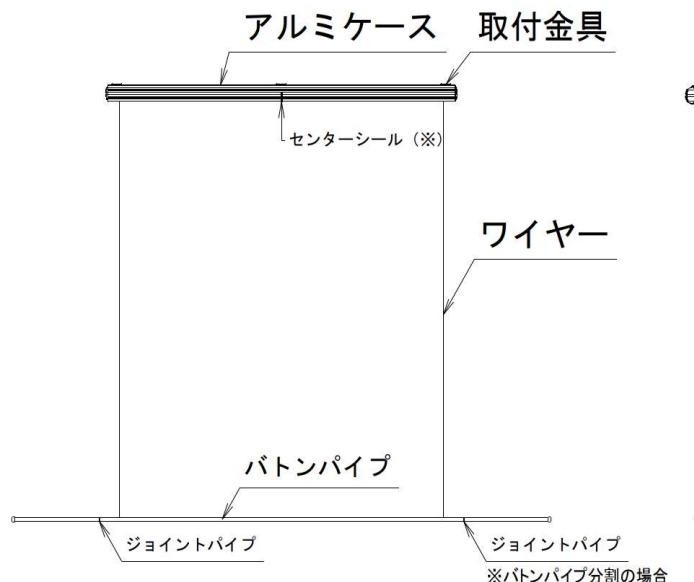
- ① 本取扱説明書記載の内容に反した工事、使用により発生した損害・被害
- ② 本製品の不良・不具合以外の事由（火災・自然災害・設置工事の不備・建屋側取付面の不良などを含む）による損害・被害
- ③ 本製品の故障・不具合を含む何らかの理由または原因により、使用できない事で被る不便・損害・被害

製品の取付手順

* 製品が間違っていないか、付属品がきちんと揃っているかお確かめ下さい。



本製品は工場出荷時に
調整済みです。
分解せずに取り付けて下さい。

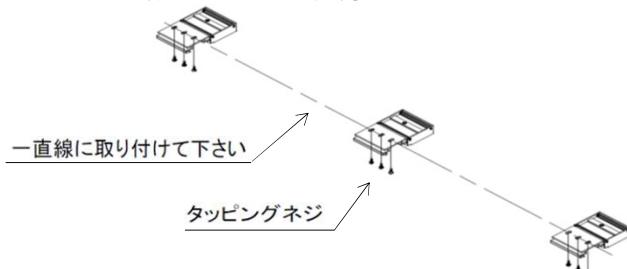


付属品	タッピングネジ	取付金具	Sカン
BL=2000	9本		
BL=3000		3個	
BL=4000	(4×40)		2個

※ケース落下防止ワイヤーセットの付属品は
6ページに記載しております。

① 取付金具の設置

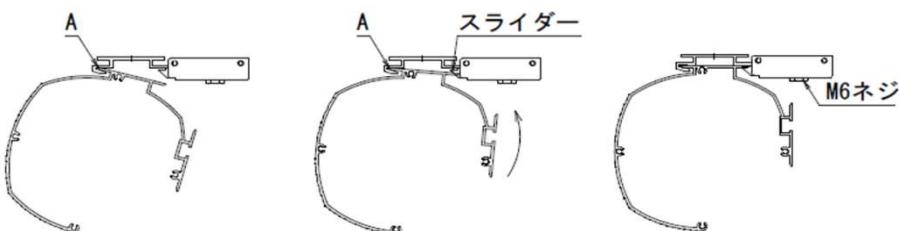
取付金具のスライダーを固定しているM6ネジを少し緩めて、スライダーがスムーズに動く事を確認して下さい。
取付金具3個を並べて一直線になるよう、付属のタッピングネジでしっかりと固定して下さい。



※ 左右の取付金具は、
なるべくケース両端の
位置になるように、
しっかりと固定して下さい。

② ケースの固定

下記の順序でスクリーンケースを取り付けて下さい。

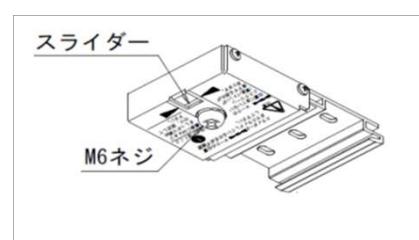


ケースを傾けながら
ケース取付金具内部
(A部)に押し当てる。

Aを支点にケースを
上げる(円弧の動き)。
スライダーが
スムーズに後退する事。

スライダーがバネの
力で戻る時、カチッと
音がするまで押し込む。

(※) センターシールは本体取り付け後に外して下さい。



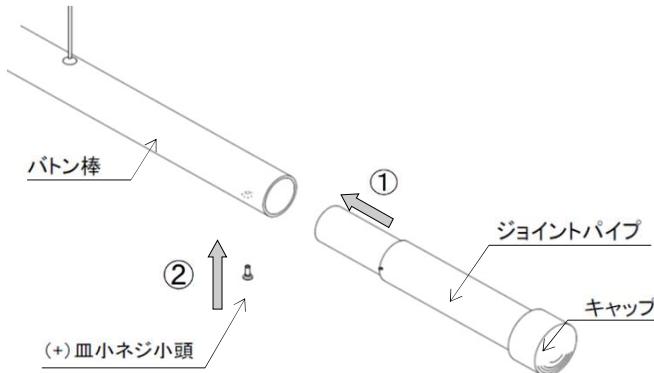
スライダーが▶◀マークの位置まで
スライドしているのを必ず確認して下さい。
* スクリーンが脱落する危険があります。
最後にM6ネジをしっかりと締め付け、
固定して下さい。

ジョイントパイプの接続方法（バトンパイプ分割の場合）

<取付方法>

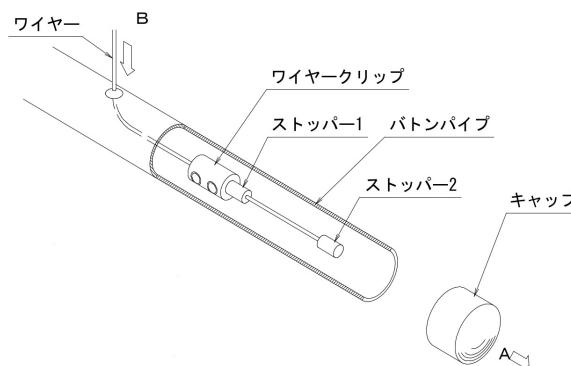
- ① ジョイントパイプを差し込んで下さい。
 - ② (+)皿小ネジ小頭M4×8で固定して下さい。
- ※反対側も同様に差し込み、固定して下さい。

付属品	ジョイントパイプ 2本 (キャップは組み込み済)	(+)皿小ネジ小頭 M4×8 2個
-----	--------------------------------	-------------------------

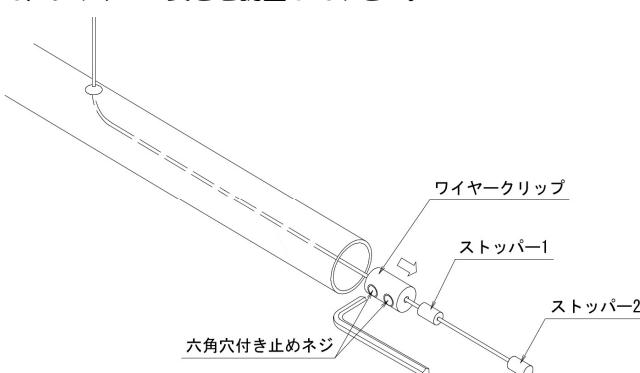


<バトンパイプの水平レベル調整>

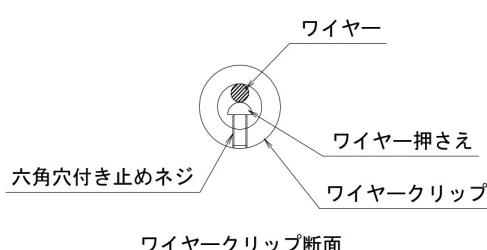
- ① キャップ（A）をはずし、ワイヤー上部（B）を押し込み、ワイヤー端部を引っ張り、ワイヤークリップをバトンパイプの端より外に出します。



- ② 六角穴付き止めねじを緩めて、ワイヤーの長さを調整して下さい。

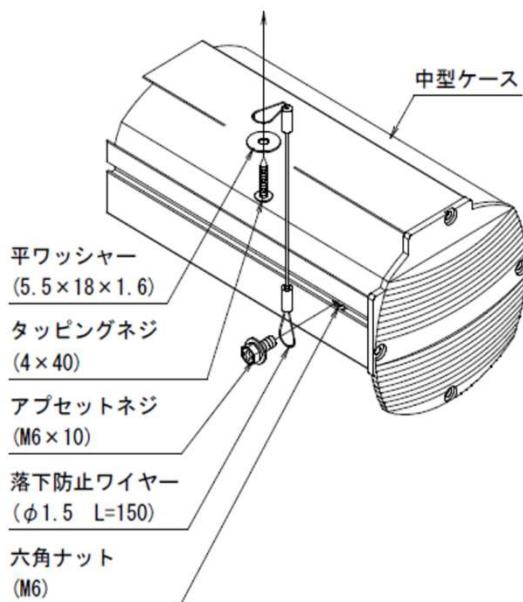


- ② 調整後はワイヤー押さえの向きを確認して、六角穴付き止めねじでしっかりと固定して下さい。
(ストッパー1・2は固定されていますので、バトンパイプは上方向しか調整出来ません。)



ケース落下防止ワイヤーセットの取付手順

- 天井もしくはボックス上部に取り付けます。



付属品（中型ケース用）	
	2本 落下防止ワイヤー (φ1.5 L=150)
	2個 平ワッシャー (5.5×18×1.6)
	2本 タッピングネジ (4×40)
	2本 アプセットネジ (M6×10)
	2個 ※六角ナット (M6)

※六角ナットはケースに組み込まれています。

● ケース落下防止ワイヤーセットの取付

落下防止ワイヤーの輪にアプセットネジM6×10を通してケース本体のM6ナットに取り付けます。落下防止ワイヤーのもう一方の輪にはタッピングネジ4×40に平ワッシャーを取り付けてから天井もしくはボックス上部にねじ込みます。落下防止ワイヤーは、製品取付部と天井取付部の間にたるみが出来ないように取り付けて下さい。

注意：左右2ヶ所に取り付けて下さい。



このケース落下防止ワイヤーセットは製品を取り付ける為の金具ではありません。

地震や施工不良などの要因で落下する事に対して、より安全を守る為に施工する金具です。



取り付けは建築用鋼製下地材のある所か、補強するなどして十分な強度のある所へ

取り付けて下さい。

必ず守る

結線の方法

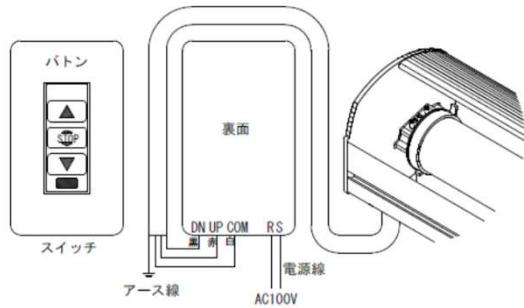
- 電源線・モーターリード線を結線します。



◆ 必ず電源を切って作業して下さい。
※ 電源線+Eはφ1.6mm×3c相当以上で
配線して下さい。
(配管配線工事は別途です。)

- スイッチを取り付けて下さい。
(壁埋込みボックスは別途です。)

- 最後に結線が正しく行われているか
(他の線と触れていないか等) 確認し電源を入れて下さい。



バトン下限停止位置の調整

本製品は工場出荷時にバトン下限停止位置をあらかじめ設定してありますが、取付場所の状況に応じ、リミッター調整によって停止位置を任意の位置に変更することができます。

調整時のご注意

連続して（約5分程度）昇降を繰り返すと、モーターに内蔵されているサーマルプロテクターが働き、操作スイッチを押してもモーターが作動しなくなりますが、これは故障ではありません。
30分程度で自動的に復帰します。



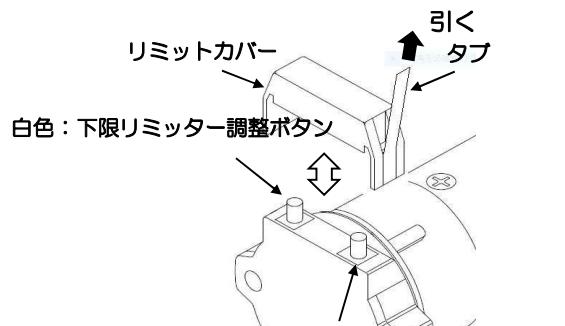
※ モーターが作動しなくなった時は、必ずSTOPボタンを押して下さい。
自動復帰した時に動くため危険です。
リミッター調整は停止位置を確認しながら行って下さい。
リミッター調整ボタン（上限）は必要時以外は絶対に触れないで下さい。



※ 工場出荷時には、バトンストロークを最大に設定していますので現状のリミット位置より下げる事はバトンの脱落の恐れがありますのでおやめ下さい。
※ バトン下限停止位置を調整する時は、必ずSTOPスイッチを押してから調整を行って下さい。
スイッチに内蔵されているタイマーによりモーターに通電されている場合があり、リミッター調整ボタンをOFFにした時にモーターが動き出しますので危険です。

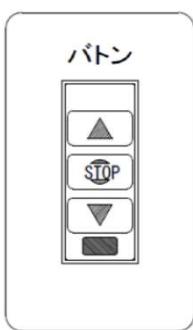
タブを矢印の方向に引っ張りリミットカバーを外し、下記の手順で停止位置を調整して下さい。

- ① 下限（上限）リミッター調整ボタンを押し込み、■ OFFの状態にして下さい。
 - ② スイッチの ▲ ▼ ボタンで位置を調整し、ご希望の位置で STOP を押して停止させて下さい。
 - ③ 下限（上限）リミッター調整ボタンを再度押し込み、■ ONの状態にして下さい。
その位置で上限・下限が設定されます。
- ※ 動作中（停止前）にONの状態にしないで下さい。
リミット位置が正しく設定されません。
- ※ 調整後、設定した位置で停止するか再度確認して下さい。
- ④ リミットスイッチ設定後は必ずリミットカバーを取り付けて下さい。（タブが緑色のボタン側）



万が一触れた場合は、左記①～③の手順で再度上限の調整を行って下さい。

ご使用方法



スイッチはパルス式ノンロックスイッチを使用しています。ボタンを一度押せば製品の内蔵リレーが作動して、あらかじめ設定した停止位置まで自動的に動き停止します。



バトンを収納する時

バトンが自動的に上昇して収納され停止します。



非常停止の必要がある時

バトンを直ちに停止させる時。
また、作動中のバトンを任意の位置で停止させる時。

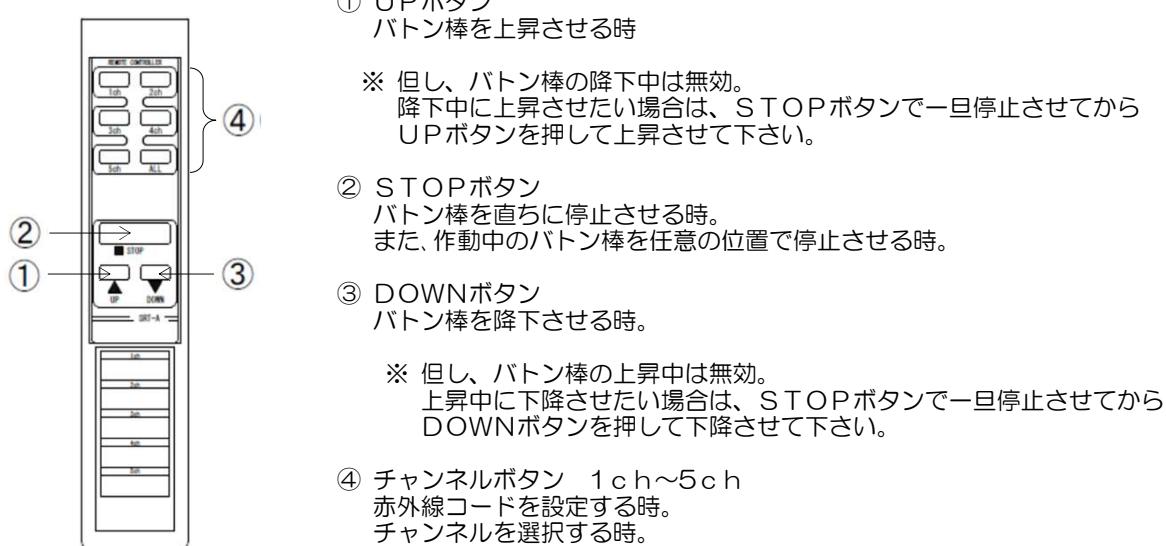


バトンを使用する時

バトンが自動的に下降して設定された停止位置で停止します。

◇送信機の仕様

- 使用したいチャンネルボタンを押し、UP・STOP・DOWNボタンで操作して下さい。
一度チャンネルを選択すると、次に選択するまで同じチャンネルで動作します。



●リモコン操作の注意事項

- * リモコンを操作しても時々反応しなくなった時などは、電池の寿命が考えられます。
早めに新しい電池と交換して下さい。

◇赤外線受信コード設定

※本製品は出荷時に赤外線受信コードを送信機の1chに設定しています。

- ① 送信機のチャンネル設定
送信機のチャンネルボタン(1~5)を押して送信機のチャンネルを設定します。

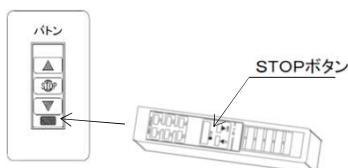
- ② 赤外線受光部付スイッチの受信コード設定

- 1)赤外線受光部付スイッチの停止スイッチを3秒以上押し続ける。
- 2)停止スイッチから手を離さずに開・閉スイッチを同時に押すと受信コード設定モードに入る。



- 3)開・停・閉スイッチから手を離し
20秒以内に送信機を受光部に向けて
停止ボタンを0.5~2秒の間隔で
3回以上押す。

- 4)同じコードを20秒以内に2回受信するとコードが登録され、
動作モードに戻ります。



- 受信コード設定モードに入ってから20秒以内にコードが設定されない場合は動作モードに戻ります。
- 受信コード設定モードに入ってから20秒以内でも赤外線オーニングスイッチの停止スイッチを押すと動作モードに戻ります。

【受信コード設定上の注意】

- * 受光部の近くで真正面から送信すると赤外線の反射により受信コードを設定できない場合があります。

【対処方法】→少し斜めの位置から送信して下さい。

- * 送信機のSTOPボタンを0.5秒未満の間隔で押すと受信コードを設定できない場合があります。

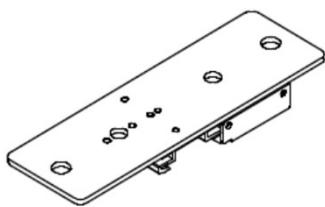
【対処方法】→受信コード設定時は、送信機のSTOPボタンを0.5~2秒の間隔で数回押して送信して下さい。

- * 登録ボタンを押す時間が3秒未満ですと登録モードに入ることができません。

【対処方法】→登録モードに入っていない時は、赤外線受信コード設定を再度実施して下さい。

別 売 品

- ボルト吊金具 十分な強度のある軸体に取り付け出来るので、より安全性を高める場合にご使用下さい。



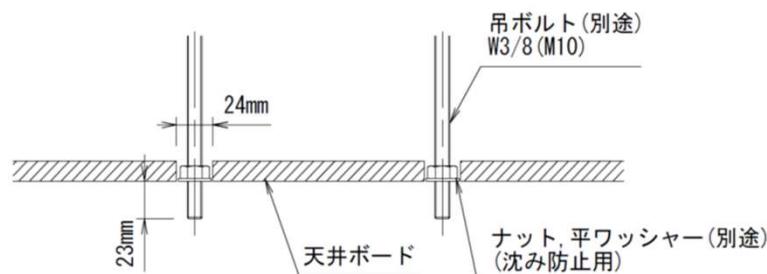
※ 左右のボルト吊金具は、なるべくケース両端の位置になるように、しっかりと固定して下さい。

別売品	ボルト吊フレート	ナベ小ネジ P=3
小型ケース	2 枚	6 個 (M4×7)
中型ケース	3 枚	9 個 (M4×7)

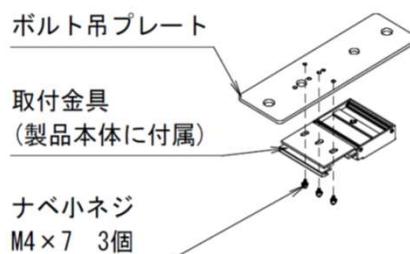
【取付例】

- ① 十分な強度のある軸体より吊ボルトW3/8（M10）をおろして下さい。

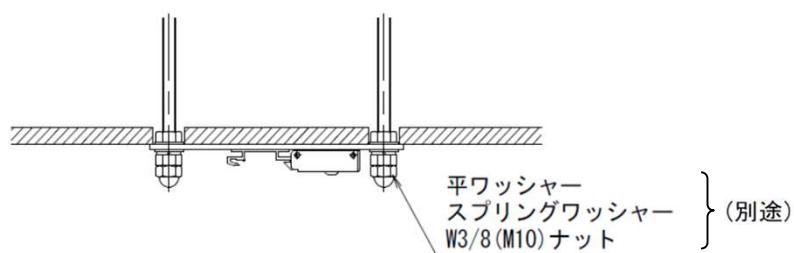
* 天井ボードに、24mm程度のナット・平ワッシャーが通る穴を開けて下さい。
天井面からボルトの突き出し量は、23mm位出して下さい。



- ② ボルト吊プレートに取付金具をナベ小ネジP=3 (M4×7) のネジでしっかりと固定して下さい。



- ③ 最後にボルト吊プレートを吊ボルトW3/8（M10）に平ワッシャー・スプリングワッシャー・ナットでしっかりと固定して下さい。（スクリーンケースの固定はP. 3を参照して下さい。）



*** MEMO ***

*** MEMO ***

安全チェックシート

より安全にお使いいただくために

お客様へ

製品は経年劣化します。毎年1回の自主点検をお勧め致します。
(空白には気づいた事などを記載して下さい。)

安全点検項目	点検結果								
	日付	日付	日付	日付	日付	日付	日付	日付	日付
1 スイッチの作動が正常である	/	/	/	/	/	/	/	/	/
2 バトン棒が任意の位置で停止する									
3 ワイヤーに緩みがない									
4 ワイヤーに形崩れ・キンク・断線・摩耗 腐食がない									
5 異音がしない									
6 製品にガタつきがない									
7 取付金具がきちんとついている									
8									
9									
10									

正常：✓ 異常：✗

上記項目以外でも不具合があれば、販売店または専門の工事業者にご相談下さい。

設置日：

シリアルNo.：

(ケースの裏側についています)

販売店：

連絡先：